

平成29年度 第1回小山町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年7月24日（月） 午後2時00分開会  
午後3時35分閉会
- 2 開催場所 小山町役場 2階大会議室
- 3 出席委員 込山正秀町長、天野文子教育長、稲恵子教育委員、米山芳子教育委員、相原正和教育委員、湯山伸彦教育委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席した事務局職員等  
湯山博一企画総務部長、池谷精市経済建設部長、岩田芳和危機管理監、小野一彦住民福祉部長、長田忠典教育次長、遠藤正樹経済建設部長代理、渡邊晃こども育成課専門監、小野正彦生涯学習課長、武藤浩こども育成課長補佐、渡辺徹町長戦略課班長
- 6 傍聴人の人数 0人
- 7 報道機関の人数 2人
- 8 会議次第
  - 1 町長あいさつ
  - 2 教育長あいさつ
  - 3 会議事項
    - (1) 今後の幼稚園、保育園、こども園の方針について
    - (2) 新学習指導要領の実施について
  - 4 その他
- 9 会 議
  - 1 町長あいさつ  
本日の会議事項は、「今後の幼稚園、保育園、こども園の方針について」と「新学習指導要領の実施について」の2点である。  
ご案内のとおり、本年度待機児童が出てしまった。事情については伺っているが、結果として大変迷惑をかけたことは間違いない。これについて忌憚のない御意見を伺いたい。  
2点目は、新学習指導要領の中で、道徳の教科化と小学校への外国語、外国語活動の導入が来年から始まるということで、この2点を中心に御意見を伺い、小山町の教育行政に活かしていければと考えている。

## 2 教育長あいさつ

今回の新学習指導要領に於いては、大きな改革がある。AIで60%の仕事が無くなるが、保育園の保育士や学校の先生の仕事はあまり減らないと言われている。変わり行く世の中で、たくましく生き抜く子ども達を育てなければならない。それを育てる先生の人材育成が重要だと考えているので、今日は、そのあたりも触れながら話し合いができれば良いと考えている。

## 3 会議事項 議事進行は、座長である町長にお願いする。

### (1) 今後の幼稚園、保育園、こども園の方針について

座長（町長）：あいさつでも申し上げたが、小山町において、本年度初めて待機児童が生じることとなった。また、今後、教育委員会では町内の幼稚園、保育園をこども園に移行していく考えとも聞いている。

そこで、初めに「きたごうこども園」や「菜の花こども園」など、すでにあるこども園において、運営面などの課題があるか、教育委員会事務局から状況を伺いたい。

長田教育次長：（「小山町の幼児教育振興について」と「平成29年度小・中学校、幼稚園、保育園、こども園の学級編成表」に基づき説明を行った。）

座長（町長）：こども園の課題や状況について、委員の皆様から意見を伺いたい。

相原委員：長時間の子どもと短時間の子どもの壁が無くなり、お互いを知った状態で小学校に上がれるので、子ども達にとっては良い状態だと思う。また、保護者もこども園になることでお互いに交流でき、壁がなくなり、小学校のPTA活動や地域の子供会活動においても、お互いに協力しあえる状態になっていると思う。親同士が仲良くなることで、子ども同士も仲良くなれるので、とても良い関係が作れていると思う。

湯山委員：せっかく設備等を拡充して受け入れ態勢をとったにもかかわらず、保育士の確保ができず待機児童が出てしまったという問題について、近隣市町でも保育士が確保できないという話を耳にする。今は売り手市場なので、条件の良い所へ保育士が流れて行く現状がある。小山町の正規職員については、待遇改善等がされていると伺っているが、臨時

職員についてはどうか。待遇改善は大きなキーポイントとなるので、検討をお願いしたい。それ以外の確保の方法として、定年延長をどこまでやるかということもあるし、養成にも力を入れないと確保することは難しいと思う。例えば、小山高校のインターンシップで幼児教育に関心のある生徒については、幼稚園・保育園・こども園での体験を何度もしてもらおうとか、大学へ進学した後も実習の際に声をかけたり、大学とも連携し積極的に実習を受け入れるなどし、優秀な人に目を付けて、何年以内に正規職員にするとか、奨学金を出す等で戻って来てもらえるように手を打たないと、大学のある地域に就職してしまい、出身地に帰って来ないという状況がある。すぐに効果が出ないと思うが、色々な手段を使う必要があると思う。

資料2 ページ3の採用・人事に、幼稚園教諭と保育士の両方を有す者を採用するとなっているが、さらにハードルが上がるので、養成に力を入れなければと感じた。

米 山 委 員：朝早くから夜遅くまで開園しており、保育士の負担が大きくなり大変だと思うが、そのあたりはどうか。

保護者や園児は違和感が無いと思うが、保育士と幼稚園教諭の摩擦は無いか。

また、菜の花こども園で独特な教育をしていると説明されたが、どのような教育なのか伺いたい。

稲 委 員：私立菜の花こども園には多く通園していると聞いているが、地区のこども園として根付くよう、足柄地区の子どもばかりでなく、遠方からの子どももいるので、菜の花こども園で送迎用のバスを出していただけるよう、協力をお願いしたい。

教 育 長：これからの時代を考えると、こども園にして子ども達にとって楽しく、学びのできる園になったら良いと思う。これからの時代を生きる子ども達を、どう育てるかが重要課題だと思っている。それには、保育士の働き方も大事になるので、朝番・遅番など色々あるが、子どもの教育や保育に専念できるような環境が大事だと思う。小山町のこども園が楽しい、やりがいがあるとなれば良いと思うので、検討や努力をしていきたい。

座長（町長）：委員から出た質問について回答して下さい。

長田教育次長：初めに、湯山委員の発言に対し回答します。臨時保育士の賃金については、昨年度見直しを実施し、5年目以降は頭打ちだった給与を、5年目以降も年間2万円ずつ増えるようにしました。また、臨時職員が担任となった場合、6%を上限とする担任手当を付けています。

御殿場市と1時間あたりの給与を比べると、1年目は御殿場市の方が高いが、小山町では年数に応じて給与を上げていることから、2年目以降は御殿場市を上回る給与となっています。しかし、これらのPRが不足していることから、今後上手くPRをして、保育士の確保に努めたいと思います。

2つ目の、保育士の確保に向け早めに声をかけたらどうかという点については、小山町に鎌倉短大や小田原短大などから教育実習に来た際に、在籍している保育士が丁寧に教えたり、小山町で働くよう声をかけていると思います。また、今まで近隣の短大や大学に出向いてのPRを実施していないため、今後は、保育士の採用について積極的にPRを実施したいと考えています。

また、今年も小山高校の1年生を対象に、インターンシップを実施しますが、小山高校や近隣の高校へ向けてもPRしていきたいと考えています。

次に米山委員からありました、こども園だと朝早くから夜遅くまで開園しており、保育士の負担が大きくなり大変だと思うが、という点については、短時間のパートを採用し、朝番と遅番のシフトを上手く組んでいます。また、園長も保育士の負担にならないようなシフトを組んでいます。

先生同士の摩擦はどうか、という点については、こども園を始めた時から、幼保の会で、園長会や研修等を実施している。また、人事においても幼稚園・保育園・こども園に関係なく配置しています。今のところ、先生同士の摩擦という話は聞いていません。

菜の花こども園の独特の取組みについては、スポーツと英語教育に力を入れて、売りにしていると聞いています。

座長（町長）：教育委員会に伺いたい。

臨時職員と正規職員の比率はどうなっているか。

長田教育次長：8月1日現在の用務員、養護教諭、給食員を含めた全職員数が112名で、その内臨時職員は64名となっています。

座長（町長）：正規職員の定数は決まっているのか。

長田教育次長：手元に資料が無いので、正確な数字は不明だが、定員適正化計画において、保育士や教諭、一般行政職等の区分で定員が決められています。

座長（町長）：定数は文部科学省等の指導に基づき決めているのか、それとも町独自で決めているのか。

長田教育次長：町独自で決めています。園児の人数によって必要な保育士の数が決まってくるので、文部科学省から定員数の指導はありません。

座長（町長）：臨時が半分以上というのは、いかがなものかと思うが。

長田教育次長：できれば保育士は正規職員を確保したいと思っています。ただし、現在、クラス担任は正規職員を配置できているため、その他の保育は臨時職員で補えると考えています。

座長（町長）：他の市町でも小山町と同じように、臨時職員が多い状況があるので聞かせてもらった。  
確認だが、定数については町が決めたルールでやっているということか。

長田教育次長：全体的な定数については、町独自で決めています。  
保育士等は、歳児別の職員配置数が決められているので、毎年10月に入園希望を取り、概ね必要な職員数が決まる。できるだけ待機児童を出さないよう、保育士を確保することが必要だと考えています。

座長（町長）：ある程度計画があり、それに基づいて職員の採用があつて然るべきだと思うので、今後の計画を立てながら職員採用を考えるべきだと思う。

それと、先ほど御殿場市との賃金の比較で、1年目は少ないが、2年目以降は小山の方が良いということだが、できるだけ初年度から多い方が、保育士の確保には有効だと

思う。

また、菜の花こども園は、定数が90名のところ、現在71名の入園数となっているが、来年度から90名募集してくれるのか。

長田教育次長：現在も90名で募集しています。現在の5歳児が3名と少なくなっており、来年度は定員に近い人数になると思います。

座長（町長）：他に何かあるか。

教 育 長：定数の面から見ても、小山町は優遇している。また、学級担任が全て正規職員となっていることから、すばらしい教育実績を残せると思っている。

座長（町長）：現在のこども園の状況につきましてご意見をいただいたこれらをふまえて、今後の町内の幼稚園、保育園のこども園移行について、教育委員会事務局から提案があるので説明して下さい。

長田教育次長：（「小山町の幼児教育振興について」に基づき説明を行った。）

座長（町長）：ただいま提案のあった、こども園の移行について、委員の皆様から意見を伺いたい。

米 山 委 員：保護者から見ると、こども園になると働き方によって転園することもなく、新しい保育園を探すこともなくなるので助かると思う。

また、須走保育園は建設から35～36年経っていると思う。狭くて老朽化が激しいので、早急に耐震診断をして進めていただきたい。

稲 委 員：足柄幼稚園をこども園化することができるか。

相 原 委 員：こども園でも保育士の確保が重要になると思うが、保育士になりたい人は多いと思うので、短大・大学・近隣の高校へPRをして保育士を目指す人を増やすことと、良い就職条件を出すことが重要だと思う。

また、保育士の免許を持っていても、自分の子どもが小

さいと長時間働けない人もいるので、短時間勤務も増やせば、保育士の負担も減るので検討してもらいたい。

湯山委員：自分が住んでいる明倫地区には幼稚園が無いので、幼稚園を希望する方は、他地区へ通園している。教育委員会から提案のあった、すがぬま保育園がこども園になれば、地域の人たちに歓迎されると思う。ただ、施設一体型となると手狭だと思うので、考慮してもらいたい。

教育長：9月から始まる幼稚園の完全給食化を手始めとして、こども園化を進めたいと思っている。幼少期の育ちは、その後の人生を決定するくらい大事です。小山町も3つの心、6つの躰として6歳までの大切な時期に、いい育ちをするよう、進めている。3歳以上は、集団で学ぶことが人間力を育てるうえで重要です。集団の中で色々な人と豊かに関わり合ったり、多くの体験を積み重ねることで、心身ともに「金太郎」のような強くて優しい子どもに育つと思う。小山町の子どもが減少している中、こども園化して一緒に育ちをさせたいと願っているなので、推進していきたい。

座長（町長）：委員から出た質問に回答して下さい。

長田教育次長：初めに、足柄幼稚園をこども園化できないかについてですが、足柄幼稚園の現在の状況は、3歳児が3人・4歳児が4人・5歳児が7人で、下の2部屋で保育を行っています。

平成28年度に菜の花こども園が、足柄地区のこども園として開園しており、菜の花こども園には、町でも運営補助をしていることから、菜の花こども園に足柄地区のこども園として、運営していただきたいと考えており、現在の子供の人数から考えても、足柄地区に2つのこども園を設置することは難しいと考えています。

次に長時間働けない方の、短時間勤務のパートを増やしたらという点についてですが、保育士を募集した際、パート勤務を希望する方が多いが、園とするとフルタイムで働ける人を希望しています。しかし、短時間のパートをシフトに上手く組み込めれば、他の保育士の勤務の負担が減るので、引き続き募集をしていきたい。

すがぬま保育園が手狭だという点について、区画整理や町営南藤曲団地の建設を考慮し、現在の場所に建てられる

か、また、建てられない場合の新たな敷地等についても十分検討していきたいです。

座長（町長）：米山委員からあった、須走保育園の耐震化は大きな問題だと思う。地元の協力がいただければ、教育委員と共にすぐに取り組んでいきたい。完成年次を決めてスケジュール感を持って、進めていくことが必要だと思うので、教育委員会でしっかりと方向付けをお願いしたい。

足柄幼稚園の今後のあり方についても、早めに結論が出るよう、教育委員会で相談してもらいたい。

こども園移行に関する今後のスケジュールについて、提案、御意見をいただいた。「すがぬま」や「すばしり」の建設場所の選定や足柄幼稚園についてなど、個々に協議すべき事項はありますが、幼稚園、保育園のこども園移行については教育委員会の示されたスケジュールを基本として進めていくこととする。

さらに、保育士の待遇改善など保育士等の確保対策につきましても、引き続き尽力していただきたい。

次に、湯船原の新産業集積エリアに設けることとしている、幼保施設について協議をしたい。新聞等でも報道されているが、内陸のフロンティアを拓く取組の一つとして進めている新産業集積エリアに幼保施設用地を確保している。具体的にはこども園を設けたいと考えているが、その手法や運営主体などは、まだ決まっていない。

しかし、こども園を設ける際は教育委員会が行う事務事業は少なくないので、この会議で共通認識を持ちたい。経済建設部長代理から、今の状況を説明し意見交換をしたい。

遠藤 経済

建設部長代理：（ふじのふもとに「三来拠点」・小山町新産業集積エリア造成事業・湯船原地区事業計画工程表に基づき説明を行った。）

座長（町長）：ただいま説明のあった新産業集積エリアのこども園新設について、委員の皆様から意見を伺いたい。

稲 委 員：菜の花こども園の保育がとても良いと聞いている。努力していただいていると思う。今後、こども園の増加があれ



ば町としても発展性が見えると思う。きたごうこども園の待機児童のことを考えると、湯船原のこども園新設は、北郷地区にとっても大切なことだと思う。

米山委員：町には療育型の施設が無く、遠い富岳学園まで通わなければならないので、療育施設を併設していただきたい。

相原委員：小山町から富岳学園に通っている子どもがいる。現在は、文化会館まで迎えが来ているが、バスに同乗している職員が1人しかおらず、子どもを見るのが大変なようで、保護者が送迎した方が安心できるという意見を聞いたことがある。また、急な迎えの際も、御殿場まで行かなくてはならないので、小山町内に療育型の保育園を作ってもらいたいとの意見がある。新設のこども園に療育施設を入れてもらえば、保護者も助かると思うので、検討していただきたい。

湯山委員：障害者の早期教育も重要視されてきている。御殿場市の私立幼稚園は、それぞれ特色を出しており、地域の人達の選択肢にもなっている。御殿場市では公立と私立が共存し切磋琢磨しているので、新設のこども園にもそのような役割を期待する。

教育長：きたごうこども園も大規模となり、今回、待機児童が出た。これから0～2歳までの入園希望者が増えると思われる。湯船原エリアも働く母親が確実に増えるし、大御神などからも近いので、利便性が高い施設になると思う。

また、子どもを育てていく上で、療育というのが重要課題となっているが、現在、小山町には施設が無いので、療育や相談ができるようになればありがたい。また、菜の花こども園と同じように、園長会や研修を町と一緒にやり、小山町の教育を推進していきたい。

長田教育次長：現在、富岳学園等に入園できずに、各保育園に入園している子どももあり、そこには保育士を1名配置しなければならないので、保育士を増員している状況があります。療育ができる園や専門的な施設が町内にあれば、親も安心してあずけられると思います。

座長（町長）：湯船原工業団地に限らず、近くには富士スピードウェイやゴルフ場がある。さらに、新東名高速道路のPA周辺でも開発が計画されていることから、多くの雇用が周辺にあるので、すぐに定員に達してしまうと思う。

以前、富岳学園と何度か話し合いをしたが、御殿場から先生方を通わせたり、管理するのが大変だということで断られた。

まだ期間があるので、教育委員会や未来拠点課で、皆様の希望に沿えるように進めていきたい。

ただいま、新産業集積エリアに設けることとしている幼保施設につきまして、意見をいただいた。企業誘致や雇用の確保のためにも勤務する事業所の近くにこども園があるということは、大きな利点であり強力なセールスポイントであると思う。

今後、関係する各部課、教育委員会、さらに造成事業主体と緊密に連携をとり、こども園の新設を早急に具体化していきたい。

## （２）「新学習指導要領の実施について」

座長（町長）：新学習指導要領は具体的に小中学校での道徳の教科化と、小学校における外国語及び外国語活動の導入と聞いているが、新学習指導要領の実施に対する準備状況や、想定される課題などについて説明をお願いします。

渡邊こども

育成課専門監：（「今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール」・「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」に基づき説明を行った。）

座長（町長）：ただいま報告のあった新学習指導要領の実施に向けての課題や現在の状況などについて、委員の皆様から意見等を伺いたい。

湯山委員：英語が下の学年までになると、2時間の教科化について、現場では対応に苦慮していると思う。特にベテランの先生が教員になった時点では、やらないことになっていたのでは、不安を抱いている方が多いと見受けられる。どのように不安を解消して、子どもにとって良い外国語教育ができるか、

研修等を実施していただきたい。小学校の段階で、英語を嫌いになってしまうとその後が大変なので、英語が好きになって中学へ進学できるような授業を考えたり、中学と連携しながらできれば良いと思う。移行期間もあるので、研修等も含め教育委員会のバックアップをお願いしたい。

稲 委 員：小山の子ども達の英語力を高めるためにも、良い授業作りをしてほしい。そのためにも、日本語と英語が堪能で自由に使える人の配置が重要になると思う。

相 原 委 員：道徳教育は、平成30年度から小学校で、平成31年度から中学校で始まるということだが、道徳教育は日常生活の中で培われていくものだと思っている。学校ばかりでなく地域社会や家庭で、しっかりと道徳観念を育てていくことが重要だと思う。子ども達が自分の考えをしっかりと持ち、他人の考えを聞いて議論すること、視野を広げて物事を見ることなど、大人になる上で大切なことを道徳教育で学ぶことができるし、人として大事なことを学ぶことができれば、子ども達が大人になった時に良い社会になると思う。幸い小山町では今年度から「金太郎10ヶ条」が取り入れられ、小中学生全員に配布されているので、これを浸透させて暗記して言えるようになれば、自ずと行動に繋がるので大切なことだと思う。

米 山 委 員：今回の改訂の移行期間が3年間あるが、今でも先生方が大変なので、過重にならないようにしていただきたい。子ども達にとってもプレッシャーにならないよう、楽しく学校に行けるようにしてほしい。

教 育 長：新学習指導要領の英語教育導入は、小学校ではどのようにやって行くかの整理もできていない状況で、先生方も大きな不安を抱えている。特に小学校5・6年を担当する先生は困っていると思う。誰もが英語教育ができるようにしていきたい。授業時間数の増加や教える教員の問題など、この3年間で解決していかなければならないので、大きな問題だと思っている。特に、授業を行う教員の不安を無くし、子ども達が英語を楽しみと思える授業づくりをするために、どうしたら良いか、研修を進めていきたい。今後も、英語教育のできる教諭を配置し、各小学校と中学校とも連携しながら小山町の英語教育を推進していきたい。教育委員会

もバックアップして行くが、町の協力もお願いしたい。

渡邊 こども

育成課専門監：今年度、夏休みに英語・道徳・特別支援の研修を予定しています。3年間継続して実施することで、教師の英語力や指導力向上に繋がればと考えています。現在、北郷中学校で県費を使った社会人活用事業で、教員の免許は無い方に英語の授業に入ってもらっています。入っている人の魅力もあると思うが、英語が楽しいという生徒が現在多いこと等を踏まえながら、今後の対応を考えていきたい。

座長（町長）：教育長の言うとおりの先生方が大変だと思う。今後どうしていくかが課題だと思う。町も応援するので、子ども達が英語に馴染める環境づくりをやっていきたいと考えている。町長部局と教育委員会と一緒に取り組んでいきたい。

新学習指導要領の実施について意見をいただいた。

現在、学校現場では教師の多忙化が大きな課題となっていると伺っている。こうした中、道徳の教科化、外国語、外国語活動の導入、それに向けた準備など、負担が増すということは理解できた。

町でも、子ども達が、より良質な教育をうけることができるよう、新学習指導要領の実施に向けて、教師の授業力向上に向けた施策を支援したいと考えている。

## 5 その他

湯山企画総務部長から、次回の総合教育会議は、平成29年11月頃開催する予定であることを報告した。